



# 手づくりのリハビリ帳

〔神奈川県〕 草間利明 くさま としあき 56歳

突然、手が動かなくなりました。びっくりもしない。こんなことが起きるのか。焦った。そのまま救急車で搬送され、即入院。病院のベッドで過ごすことになってしまった。が、嫌なことばかりではない。そこには、素晴らしい出来事も待っていた。

病名はギラン・バレー症候群。手や足などを動かす運動神経がやられてしまう病気だ。以前、女優の大原麗子さんが自宅で亡くなったときに再発していたといわれ、朝ドラのヒロインであった芳根京子さんは中学生のときに発症したが完治したと話題になった。

点滴治療を続け、スプーンから箸を使つての食事が少しでもできるようになったころ、看護学校の学生がやっ

て来た。卒業を控え、実際に患者さんを見る研修のために。

看護師見習いとなった彼女は緊張していたのか、初めは体温や血圧を測るのもぎこちない。でも、真剣に取り組む姿には好感が持てた。

毎日顔を合わせるうちに、あいさつも検査もテキパキとこなすようになった。リハビリを見学してメモを取ったり、シャワーで背中を流す手伝いをしてくれたり、ベッド周りをきれいに片付けてくれたりと、そのままめまめしさには感心してしまつた。退院の前日が実習の最終日となつたが、彼女は学校の用事で来られなかつた。代わりに看護学科の先生があるものを手渡してくれた。

それは画用紙を5枚重ねてホチキ

スでとじた小冊子。これからするベキラハビリの目的、やり方、チェックリストが、手書きで記されていた。色鉛筆で仕上げたイラストが各ページを飾り、最終面には2人の似顔絵が……。ニッコリ笑つた表情がとてもすてきだ。

忙しい勉強の日々の中で作つてくれていたのか。うれしかった。

「あなたは、きつと思いやりのある、優しい看護師になれます。大丈夫です」

さあ、どちらが先にゴールできるか競争だ。

